



運動場の面積で折り合いつかず

地元Ⅱ一・五〇％、市Ⅱ一・五〇％

比江山処分
問題

決される「運動場の面積」について、市側の前回と同じ回答に対し

地元は四割にこだわった。市の

の再建に協力するという観点から、譲歩の案として、当面陸上競技場二・五割の確保を最優先条件として提示。結局市側がもう一度検討するということが散会。

地元からは「市の赤字の責任を国府だけへまわすことはおかしい」「歴史公園的なものを県の手で」という市の意向のようだが、県も国の補助を得てはじめて実現できるときいている。もうすこし国と県と市が話し合ったうえで「マナイタ」へのせるべきではないだろうか。」「市の将来をまじめに考えたら一・五割などという数字はどうしてもわからない」など。

市からは「議員十名で構成する『公有地処分審議会』も全体的な見地から再建のためには一・五割

二月七日、市からの「財政再建のために、運動公園用地として購入している比江山十八割のうち、十割を木材団地に売却すること」依頼の説明会から話し合うこと六回。その結果が、市Ⅱ一・五割の運動場と地区の諸整備、地元Ⅱ四割の運動場と地区の諸整備というところまで近づいてきていました。十一月八日夜、七回目の話し合いがもたれましたが、焦点は「運動場の面積」。市から両助役と関係課長、地元から代表者十名が出席して話し合いが進められました。

国府地区の木材団地実現の際の関連整備事業の実施については大筋で合意し、なお個々の問題点については関係者で検討するということになりましたが、何よりも先

程度の面積が妥当との意向もありこの席で面積増の約束はできません。」「などの意見が出されました。比江山買収の経費が約十三億円、一日にざっと二十六万円もの利子が支払われる勘定になります。これは市民の負担というかたちではねかえります。早急な解決が望まれます。

好評だった 「無料にぎり寿司」

第3回観光と物産まつり

【第三回南国市観光と物産まつり】が十一月十一、十二日の両日、市民体育館で開かれました。当日は約三十五店が出店。なかでも、米の消費拡大を図ろうと設けられた「無料にぎり寿司コーナー（岩沼市提供のササニシキを使用）」の前には長い行列ができるなど、なかなかの好評。また、今回は市制二十周年記念でもあり、姉妹都市、岩沼市（宮城県）のこけしやリンゴ、地酒などの「特産物コーナー」も、訪れた買物客らに喜ばれていました。このほか、土曜市組合によるモチつきの実演と即売、市内仕出店による皿針料理の展示、きき酒コーナー、タバコの銘柄あてコーナーなど、盛りだくさんの内容で開かれた物産展は、二日間延べ五千人あまりが会場を訪れ、にぎわいました。

香長中学校が創立二十周年

『自律・協同・友愛』の校風を大切に

香長中学校（北村杜校長、生徒五百人）がこのほど「創立二十周年」を迎え、十一月十七日、盛大な記念式典が開かれました。

香長中学校は、南国市が発足した昭和三十四年十月一日、稲生、十市、三和、大篠の四中学校が統合して誕生。現校舎は昭和三十五年から三十九年で建築されたもので、昭和三十六年五月統合中学校としてスタートしました。

体育館で開かれた当日の式典には、全校生徒や先生をはじめ、父兄や市内の学校関係者ら約六百人

が出席。式典では、北村校長が「今まで築いてこられた先輩の業績に負けないよう、またたけがさないうちから生徒とともに歩んで行かなければならないし、本校の校風をさらに発展さすよう努力する決意です。また生徒代表の山本宗宏君（三年）が「先輩の人たちが作ってくれたたりっぱな校風、伝統を守り、学習にスポーツにがんばっていきます。」とあいさつ。『香長中の二十歳』を祝いました。また、十七日には記念式典のほかに校内弁論大会や音楽会が、翌日十八日には運動クラブが他校との交歓試合を行ったほか、作品展も開かれました。